Popoki

Newsletter No.108 2014.8.28

ronniandpopoki(at)gmail.com
http://popoki.cruisejapan.com

大雨・土砂災害の犠牲者を追悼し、一日も早い復興をお祈りします。

ポーポキが住む日本では、赤いトンボが見えたら秋が近いと言われます。夏が大好きなポーポキは、ちょっぴりさみしい。この懐かしい気持ちを表す有名な童謡もありますね。http://youtu.be/lLoSvWK9aJ8

Popoki's Hot News!

ポーポキのピース・ブック３！

ポーポキのピース・ブックシリーズの３冊目、
『ポーポキ、元気って、なに色?』ができました！
お近くの本屋さん、出版社エピック(https://bookway.jp/epic/)、神戸 YMCA、ポーポキ・ピース・プロジェクトから入手できます。ご注文、およびご感想をお待ちしています。

「一言の平和」コーナー

ポーポキのお友だちのみなみにゃんから届いた平和。

「平和なとき
朝日に起こされるとき
風にくすぐられるとき
雨に慰められるとき
星に勇気づけられるとき
笑顔に癒されるとき
わたしはいつも平和を感じながら生きている」
あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。
ポーポキのメール ronniandpopoki (at) gmail.com！

ぼくの新しい動画をURLかFBでぜひ観てくださいね！
URL: http://popoki.cruisejapan.com/videos.html

いつもご協力、ありがとうございます！

『ポーポキ友情物語　東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』
（エピック 2012）はお陰様で好評です。ぜひ広めていただきたいです！
＊神戸 YMCA でも販売していますよ！　本については、
http://popoki.cruisejapan.com/monogatari.html をご参照ください。

こどもの里イベントのレポート

ばしにゃん

2014 年 7 月 12 日の真夏日、ろにゃんと他のにゃんたちは大阪こどもの里で平和のイベントを行いました。

このイベントでは、たくさんの大人の外国にゃんと日本にゃんが、平和についての想いを共有し、イベントに参加した子どもにゃんも平和に対しての考えを伝えてくれました。

プログラムは、ポーポキのピース・ブックを各国の言語で音読することから始まりました。第二部で取り上げる「四季」にちなんだページをみんなで読みました。馴染みのない言語を聴くと、どんな風に聴こえるのだろうか？魔法の言葉のように聴こえるのかもしれない。かっこいいと思うにゃんもいるかもしれない。特に母語以外の言語に馴染みのない子どもにゃんにとっては、外国語はとても興味深いものであると思います。

フランス語やスウェーデン語、フィリピン語、トンガ語、英語、イタリア語、他にも様々な言語で本を読み合い、とても素晴らしいイベントの始まりになりました。同じ平和のメッセージを違った言語で聴くということは、とても楽しいことではないでしょうか。

第二部では、季節について絵で表現し共有するワークショップを行いました。日本には、春夏秋冬と四つの季節があります。季節毎のグループにわかれましたが、もっとも人気があった季節は夏と冬です。

夏チームは、釣りやスイカなどの夏らしい果物、BBQ やプール、海などの夏のイメージに合うものを描きました。一方冬チームは、雪やホッキョクグマなど寒さを思い浮かべるような絵を描きました。春には、桜や花見が書かれ、秋にはスポーツやもみじなどの絵が描かれました。それらの絵からは子どもにゃんの熱い情熱や才能が見えてきました。

外国にゃんは、子どもにゃんに、絵について色々な質問をしました。子どもにゃんは各季節をどんな風に表現したか、彼らにとって季節とはどういうものなのかなど、しっかりと答えてくれました。このプログラムもみんなとても楽しむことができました。

読んだり、描いたりすることで、大人にゃんも子供にゃんもみんなとても仲良くなりすごく楽しい雰囲気のイベントでした。

気温はとても暑かったですが、にゃんたちは全力で読み、描き、平和について考え共有することができました。

ろにゃんと彼女のポーポキ友たちのおかげで、とても素晴らしいイベントができました。

このような素敵なイベントに参加できたことに、心から感謝します。

皆にゃん、ありがとうございました。

ヒロシマ・ディに核問題を考える～シャドー・プロジェクトとスカイプ

もりにゃん、きもとにゃん、王にゃん

今年も、世界で初めて原爆が投下された日がやってきた。69 回目の 8 月 6 日。今年もポーポキ・ピース・プロジェクトは、アメリカ、ピッツバーグ市で同じ時間にプログラムを開催した Remembering Hiroshima, Imagining peace とスカイプで話し合いしました。ピッツバーグでは、スカイプ会議の前に核の脅威をテーマにした映画、『生き物の記録』の上映があった。日本では、生田川公園で、原爆の熱線によって人の影が映ったように残った出来事をなぞらえて、シャドー・プロジェクトのアクションを行った。影を描くことによって、突如として影にさせられた自分を体感することで、当時の惨劇に思いを馳せようという試みである。８時 15 分には、たくさんの影が横たわる傍で黙とうを捧げた。その後、YMCA に移動してスカイプでピッツバーグの会場とつなげ、平和や核兵器、原発にテーマにそれぞれの意見を交換しあった。そこで交わされた内容の一部を、ここで紹介し共有したい。

数人のポーポキにゃんが質問を用意した。

１．もりにゃんは、集団的自衛権の武力行使が閣議決定されたことについてアメリカでの反応を聞いた。

これに対して、日本国憲法第 9 条がアメリカ政府に強いメッセージを発しているという返答があった。また、日本の平和憲法の空洞化を危惧している、という意見があった。

また、Remembering Hiroshima Imagining Peace のメンバーが読み上げた声明もこの問題に触れた。同声明は、日本政府に憲法 9 条の徹底や北東アジアにおける非核平和地帯づくり、アメリカ政府に核兵器の廃絶やクリーンエネルギー政策から原発を削除することを要求した。

２．きもとにゃんは、核を保有していることについて質問した。

返答は、多くの人々は不安を感じるけれど、核の技術が開発してしまった今日において、ともに生きる必要がある。しかし、核兵器が使われないようにする必要がある。

３．スザンカにゃんは、福島についての関心の程度を聞いた。また、核兵器廃絶と原発推進という矛盾について質問をした。

福島への関心については、アメリカでは一般的には関心がなくなっている、という答えだった。また、核利用の矛盾については、核兵器廃絶を訴える人の中でも、エネルギー問題については意見がわかれ、中には原子力を問題視するよりはむしろ電力の解決策の一つと考える人がいる、という説明があった。

続いて、ピッツバーグの参加者からも質問がなされた。

スーさん　「正直に答えていただきたい。アメリカは、平和的で平和構築に貢献する国だと思うか？」

A1. バーナードにゃん（コンゴ）「アフリカでは、アメリカを世界のリーダーとしてみている。しかし、シリアの問題のように間違った政策をしている場合もある。」

A2.アナにゃん（トンガ）「アメリカは強い国だとは思うが、メディアを通しての情報ばかり。それをみる限り、戦争の話題が多い。」

続いて、バーナードにゃんからの質問があった。
バーナードにゃん（コンゴ）「核兵器は平和を守る、それとも脅威にさらされる、と思うか。アフリカの人々にとって、なんらかの核の問題が起これば、自分ちは受動的な被害者になるという恐れがある。」
会場からの返答に興味深い指摘があった。それは、核兵器は「暴力対暴力」という問題ではなく、「暴力対絶滅(生存できない状態)」という問題だという指摘だ。発言した方は、1950年代において、核兵器がいかに重要であったかについての記憶と、今日もその背景がすべての外交政策の根底にあると話してくれた。

　さらにこの発言に、ろにゃんから、冷戦や軍事競争を知らない世代の意識はどうか、と質問が投げられた。
　会場の若い人からは、恐ろしいという感覚は、年を重ねていくと「怖い」という気持ちが増すようになったこと。そして、政府が核兵器を開発し、それを使うという間違った政策を選択してしまった、という意見を述べた。
　核兵器の抑止論の視点からも、別の方から意見がなされた。核兵器という発見をした以上、それを忘れることはできないけれども、暴力を使う代わりとなる、よりよい解決策を見つけなければならない。それは、非暴力である。イスラエルとパレスチナの長年の紛争が示すように、戦いでは問題は解決しない、という意見があった。
　さらに、ウェスティングハウスに勤めていたという方からの発言もあった。その会社は、核の技術をエネルギーにも防衛にも使っているという。そして、彼女は、そのことを偶然の一致だとは思わない、と話した。つまり、核兵器を扱えば同時に原子力を視野にいれるということを、彼女は指摘した。

　アナ先生は、アメリカの戦争範囲が組織的に拡大している、と指摘した。なぜ、私たちは他の解決策を想像できないのか？経済的な問題は？アフガニスタンからイスラエル/パレスチナ問題まで広がっている戦争のシリーズは、次は中国を見据えている。そして、それは、軍事力の新しい導入の場となる、と指摘した。

神戸 YMCA のユースリーダーも参加してくれた。彼らのコメントを最後に紹介したい。たくさんの国の人々が参加した今回の意見交換は、それぞれに新たな視点をもたらす意義深いものとなったようだ。

きもとにゃん：
初めて、シャドー・プロジェクトに参加しました。参加者の影が地面に広がった時、人の存在が小さな影だけになって残ることに、なんとも言えない悲しい気持ちになりました。平和や核兵器についての話し合いでは、先方の強く平和を望む気持ちを感じました。このワークで、今まで以上に 69 年前の事を知りたくなりました。貴重なワークに参加させてもらい、ありがとうございました。

王にゃん：
中国人の私にとって、原爆はあまり印象にはないですが、今日の活動を通して、核兵器に反対するようになりました。銀行の階段に残った人の影という話はありましたが、私はその人がどんな形をしていただろかと考えました。一瞬で命がなくなるのは信じられないです。一秒前はまだ生きていたのに、一秒後はもう死んでしまった。核兵器は本当に怖いものだなと思わされました。こんな怖いことを二度とは、絶対にしないでほしいです。また許さないです。

「都賀川水難事故の犠牲者を偲ぶ会」に参加して

ろにゃん

2008 年 7 月 28 日に神戸市灘区の都賀川で水害事故が起こりました。犠牲者 5 名のうち、3 名が子どもでした。その後、毎年の 7 月 28 日に「7 月 28 日を『子どもの命を守る日』に」という団体の主催で偲ぶ会が開催されます。今年もポーポキ・ピース・プロジェクトや岩手県大槌町の NPO つどいの仲間がおりづるを提供しました。ポーポキ・ピース・プロジェクトのおりづるをろにゃんが当日、会場へ持っていって捧げました。

暑いなかで、都賀川の脇にある公園にたくさんの人が集まりました。地元の中学校や高校のコーラスの歌を聞きながら、周囲の子どもの命を守るためになにができるかを今一度考えました。今年も大雨による災害が多い。みんなの経験、知恵、力で一人でも多くの子どものいのちを守りたいですね。参加させていただき、ありがとうございました。

ポーポキ in フクシマ　その４

ろにゃん

5 月 9 日から 11 日まで、ポーポキと一緒に福島に行って、写真家の森住卓さんの案内の下で原発事故の影響について学ぶことができました。その感想は、数回にわたって紹介させていただいています。今回は、「平和で健康に暮らす権利」を念頭に置きながら原発事故のインパクトについて感想を述べてみたいと思います。

福島第一原発事故の影響はいうまでもなく、身体にも心にも及びます。身体における影響は、広島・長崎や核実験、過去の原発事故などを含めて、今までの研究によってある程度はわかるようですが、個々人が知りたいようなことの多くは、おそらく誰も答えることができません。つまり、「ここに住んでも大丈夫？」、「これを食べても大丈夫？」、「ここで遊んでも大丈夫？」などなどの不安に対して、絶対に「イエス」と言える人はいないでしょう。また、いつ、どのような影響がどのようにでるかについても、答えがそう簡単にでません。

そのような状況は、精神的にも大きいな負担になります。自分ひとりのことはまだしも、子どもや家族を守るにはどうすれば良いかを考えるといっそう難しくなるでしょう。不安を抱えながら暮らすのはなお身体に悪いし、身体になんらかの異常がでてくると、過敏に心配しがちになります。不安や不安定が長期化するにつれて、心身ともに疲れてしまうことが安易に想像できます。

私たちは、「放射能が怖い」と学校で教えられます。福島の帰還困難地区で防護服を着て、線量計の数値が上がるのを見ながら歩き回っていたときは確かに怖かったです。しかし、もっと怖いことがありました。それはその危険な状況に慣れてしまう自分でした。最初の頃は線量計の 0.3μSv でも怖かった。しかし、どんどん上がっていくうちに、すでに通過した数値に戻ると「たかが５μSv」という気持ちになってしまったのです。慣れて適応しなければ生活ができませんが、その「慣れ」が怖いのです。福島での会話になかで、みなさんがいろいろな形で「慣れ」について語ってくれました。たとえば、「マスクをすべきだけど…。」とか「食べ物はもっと考えるべきでしょうけどね…。」その中で都会にしか暮らしたことがない私にとって印象的だったのは、今まで農家だった人はスーパーで野菜を買ったことがないので、なにをどう気を付ければよいかは今ひとつよくわからない、という話でした。健康と平和の観点から考えると、自らの健康を維持できるためには、適切な知識、情報、判断力に加えて、その判断をするためのゆとりが必要かもしれません。避難

生活者には農家や漁師が多いため、避難によって生活の場所だけではなく、生活のスタイルも完全に変わってしまいました。また、避難していない人でも、汚染によって生活の流れやあり方が変わったしまった人が少なくない。たとえば、誰に聞いても「山菜？それは山で採ってくるものよ！」といいますが、今は山からとってくることができません。そのような状況の中で、仮に信頼できる情報があっても、より安全な生活を試みることが難しいでしょう。する人はいますが、きっと疲れるでしょう。

私が福島県で感動したことの一つは、その自然の美しさです。青空をバックにみる春の数々の緑や花々の鮮やかな色が本当にすてきです。ここで生活できたらどんなにしあわせか、と思うこともありました。しかし、その美しい自然は、形も味もにおいもなく、知らないうちに襲ってきて、気が付いたころは遅すぎる放射能によって汚染されているのです。関西では、福島の問題は「もう終わった」・「落ち着いた」・「大丈夫だ」と感じる人は少なくないと思います。また、「危険だったら逃げれば良い」と考える人もいると思います。でも、今は決して安全だとは言えませんが、それでもそう簡単に逃げることができません。

今まで、多くの方からさまざまな震災体験を聞く機会がありました。原発事故に関して言えば、被災地内でずっと暮らしている人、いったん避難してから福島に帰った人、県外に避難した人など、100 人いれば 100 通りの物語があります。避難先から帰還困難区域に戻って、汚染された場所に住んでいる人に「怖くないの？」と聞いたとき、答えは「別に」、と。「避難命令の範囲がどんどん広がっていたとき、ここまで広がれば逃げることができるのに、と思っていた。近くまでは命令が出たのに、ここは出なかった。今でも出て欲しい」、といった人もいた。「もっと早く逃げればよかった」という人もいれば、「早く逃げて損した」という人もいます。あるいは、「逃げてみたが、戻りました。このままだと子どもを大学に行かすことが無理。将来の健康を心配しながら経済的にある程度安定した生活を選ぶか、健康面は安心かもしれないけど貧しいという生活を選ぶか」、という人もいました。「逃げれば良い」とか「逃げるべき」と思っていても、逃げるわけにはいかない理由があります。

ポーポキには何ができるのでしょうか？一人ひとりのいのちの尊さや、平和で安全に暮らす権利をいつも確認しながら、被災地外の人に語り続けることができるでしょう。
また、被災された方の話をゆっくり聞いてから相手が求めている健康や平和を一緒に探すことができるでしょう。そうして探していると、新たな出会いやつながりができ、力を合わせたところでみんなにとって平和で安全な社会ができるかもしれませんね。

＊ポーポキのインタビュー＊

まりにゃん

こんにちは、今回私、まりにゃんは、ボランティアの父と言われる村井雅清さん(被災地 NGO 協働センター代表)にインタビューをさせていただきました。1995 年の阪神淡路大震災から活動を続けてこられた村井さんはどのような感覚をもって 20 年間走って来られたのでしょうか。

まりにゃん(以下「ま」) : 東日本大震災が発生し、一番はじめに入ったところはどこですか?
むらいさん(以下「む」) : 岩手県の遠野です。私よりも先遣隊が山形の米沢に車で行っていたので、私は少し後から入りました。
ま：ここからどれくらいかかりましたか?
む：電車で行くので 8 時間弱ですかね。
ま：最初に被災地に赴く際に何か特に準備や用意をしていきましたか?

む：私は特に用意はしていきませんでした。それはどんな状況かを自分の目で見て、向こうで決めるので。まけないぞう(http://www.pure.ne.jp/~ngo/zou/index_j2.html)は持って行きました。向こうで決めると言ったのは、私たちは緊急支援ではなく、長期的な目で、いつもそこに何が必要なのかを考えて活動を行うからです。
ま:最初に降り立った場所はどこですか?
む：遠野駅です。
ま:何か変わった印象はなかったですか?
む：遠野は被災地の中でのあまり被災をしていない地域でしたから、あまりなかったです。遠野は後方支援の拠点、内陸のボランティアの拠点であったからです。そこから遠野の市役所の人に大槌まで案内をしてもらいました。
ま：初めて大槌町の様子を見たときはどうでしたか?
む：見たことのない光景でした。アフガニスタンという紛争に見舞われた地域にも行ってきましたが、また津波後の支援という点ではスリ

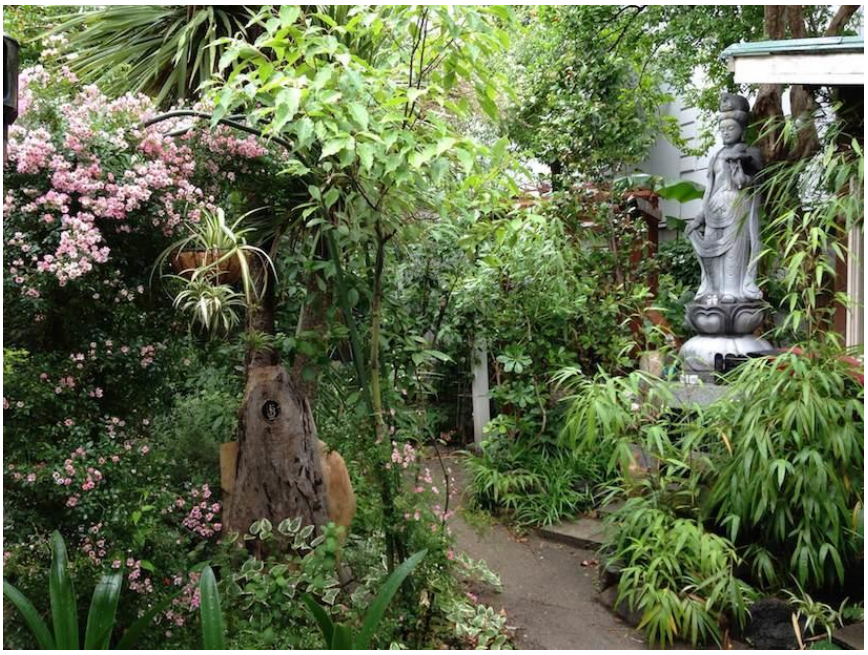
被災地 NGO 協働センターのまけないぞうです

ランカに行ったことがありますが、もしも被害状況がそれらに似ていると、どこかでみたなという気持ちにかられるでしょうが、まったく違いました。何もないのです。
焼けた車が押し上げられているのなどがありました。音はなく、何となく潮や、焼けただれた車のにおいがしたような。かすかな泥のにおいもしたかもしれません。被災した光景を私は高台から見ていましたが、その何もない光景を見たときに、衝撃すぎてほかの感覚をつかさどる器官が機能しなくなったかのようでした。人間は、そのような衝撃的なものを見たときに、一種の器官の感覚が研ぎ澄まされるのではないでしょうか。
ま：最初に被災者とお話をしたのはいつですか?
む：私が合流したのは 4 月のはじめでした。また社会福祉協議会の人たちと話をし、県外の社協はどこから来ているのかなどを聞きました。
ま：子どもたちはいましたか?
む：子どもたちはあまりいません。というのは、発災 2～3 週間後に親戚のところに行く子どもたちが多いからです。
ま:避難所の様子を少しお聞きしたいのですが､避難所で何か気になることはありましたか?また村井さんはその気になることがあったとき、どうしますか?
む：たくさんありますが、たとえば避難所のスリッパとトイレのスリッパが一緒だったりとか、間仕切りがなかったりとかかな。たとえば女性、年頃の女の子がいる家族やまだ母乳を飲んでいる子どもがいる家族への配慮といった点ですかね。気付いたときは「こうした方がいいのでは」という形で言いますけどね。こんな話があります。北海道の有珠山が噴火したとき、避難所の担当の方は「有珠山は 33 年に 1 回噴火します。私はその噴火を 3 回も経験しているが間仕切りは要ったことがない」と言いました。そしてそのことが数日後メディアに出たのです。そうするとその担当者の上の人が間仕切りを持ってこいと言います。そうするとすぐに対応するのですね。私は「間仕切りは持ってきてもいいんですよ」と言ったんですけどね。
ま：ではそのようなさまざまな状況にどのように対応をすればいいのでしょうか。
む：ファシリテーター養成講座のようなクラスがありますが、ボランティアは、わかればわかるほど黒子になることが大切なのだと思います。でしゃばったりすると衝突のもと。だから 20 年前から私が言い続けている合意形成が重要で、住民が話し合いを根気よく続けて合意を形成するべきだと思いますね。また実践がいかに大切かは 3.11 で私もやっと気がつきました。理屈ではさまざまなことを理解できていでも。合意形成の実践を経て東日本大震災のときに気がつきました。一人ひとりの意見が大切でそれが積み重なることに意味があるのでしょうね。また今やボランティアコーディネーターやファシリテーターなどという人がいますが、彼らは言われたこと(指示やマニュアル)に疑問を持たないケースが多いため、マニュアルに書いてある事項や上から指示されたことを問うことができないといけませんね。なぜこれをしなくちゃいけないのかなと。この転換ができれば、あとは考えることです。このような簡単なことが難しいのですよね。
ま：その意図せずに、うまく合意形成を行うとは、とても難しいでしょうね。その場の雰囲気作りも大切ですね。

8 月 19 日に起こった広島の土砂災害に関して情報を集める村井さんと事務局メンバー

む：私は場の力とよく言いますが、場の力というのは隠れファシリテーターなのだと思います。仕込まない、用意しないと意図しないことが生まれるのだと思います。でもある方向には持っていかなければならないというとっても難しいことを言っているわけですが。場の雰囲気がいいと、いつもでしゃばっている人でさえ、その雰囲気を読み取って自分の意見を手短にまとめ、ほかの人に時間をまわすといったことが起こる。その場に参加をしている人みんなが何となくその場のいい雰囲気に気がついて、すばらしい話し合いができる。また場のみではなく、ムードメーカーのような人の雰囲気を借りてすばらしい話し合いができるときもありますね。そういう人は自分では気がついていない場合が多いですが、そういう人に人生の中で出会うのはとてもまれなことですね。

ま：さいごに平和だなと思う瞬間を教えてください。
む：孫の顔見ているときは楽しい。余計なことを考えないでいいからね。それが 20 分であってもその時間が好きです。
ま：ありがとうございました。

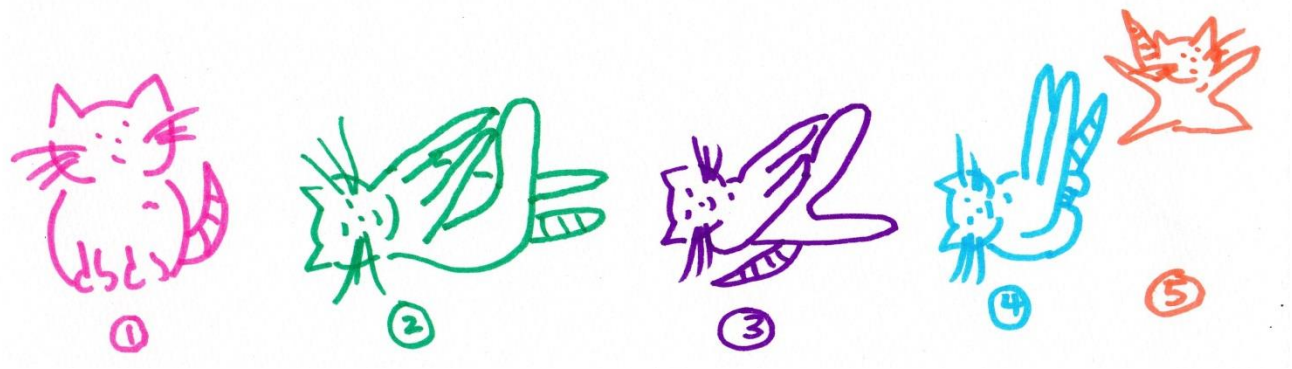


村井さんは庭いじりが大好きです。こちら事務所です。ここに写っている観音様は阪神淡路再震災から 7 周年にいただいたものです。会いに来てくださいね

ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 75

今月のテーマは、夏の空を見上げながらのストレーチです！



1. いつものように、背筋を伸ばし、自分を細く見せながらちゃんと座りましょう。
2. まず、仰向けになりましょう。右足をまっすぐあげて、ストレーチ！手はひざ、できるにゃんは足首にどうぞ。しっぽは、まっすぐにのばしてみてね！
3. 次は、反対の足です。どちらか楽な方がありますか？硬い方をもう一度伸ばしてみてもいいね。
4. 最後に両足をあげましょう。できるにゃんは手で腰を支えながら腰も上げましょう！
5. できましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！

お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低３分間練習しましょうね。

ご一緒にいかが？

次回のポー会　９月 12 日　神戸 YMCA 専門学校（新神戸 OPA２階）　19:00～20:30

8.26　ポーポキによるセクシュアリティWS　豊中市立第十四中学校教職員が対象。10:00～12:00

9.7　ポーポキ in 福島

9.18～22　ポーポキ in 大槌町＆大船渡市赤崎

10.5　平和と健康のワークショップ　兵庫医療大学

ポーポキの友だちからの知らせ

アフガニスタン産レーズンの輸入販売（CODE）

＊ぶどう畑再生支援プロジェクトにより、ぶどうの収穫量はみるみる増加しました。日本の皆さまにもこれをぜひ召し上がっていただきたい、もっとアフガニスタンのことを知っていただきたいという思いから、ミールバチャコットの農家がつくったレーズンを輸入し、熊本市の（特活）日本フェアトレード委員会のご協力で製品化・販売しています。収穫したぶどうを天日干しにした自然のままのやさしい甘みが好評です。経費を除いた収益はアフガニスタン支援に使わせていただきます。ご家庭用はもちろん、ギフトにもぜひお求め下さい。委託販売も受け付けています。　※詳しくは　http://code-jp.org/afghanistan/index.html

YMCAでお世話になっている永井にゃんと松田にゃん！
ご結婚、おめでとうございます！これからもよろしくね。

http://popoki.cruisejapan.com　　ronniandpopoki@gmail.com

Popoki in the News

ポーポキ通信のバックナンバー：http://popoki.cruisejapan.com/archives.html

- **関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ（WEB版の事例集）にポーポキ！http://www.interpeople.or.jp**
- **『平和を考える絵本出版　被災者支援きっかけに』『神戸新聞』（貝原加奈　2014.4.25　28 面）**
- **「ボランティア 37 団体に助成　大和証券福祉財団」『神戸新聞』（2013.8.23　朝刊　地域経済　8 面）**
- **「原爆の熱線で焼き付いた一　″人影″再現、非核誓う」『神戸新聞』（2013.8.7　朝刊　22 面）**
- 「被災　秘めた思い描いて」「ひと人抄」『読売新聞』（2013.2.16　夕刊　4 面）
- 広岩近広　『安全』『安心』の社会は足元から」、ロニー・アレキサンダーインタビュー　『毎日新聞』 2012.10.29　(「今、平和を語る」、夕刊、1 面)
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics.*　Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒につくり出す平和の根底に 9 条がある」NO : 66 2012 年 5 月 12 日［子どもと守る9条の会］
- 「布に希望　60 メートル」 阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21 (兵庫・29 面)
- 「平和祈る声まとめ本に」 斎藤雅志　『神戸新聞』 2012.1.19　(伝える 1・17　3・11、22 面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing”(Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima.* Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- **「省窓」『神戸青年』 No.606　2011.1.2 p.1**
- No.1「『ポーポキ、平和って、なに色？』の背後にあるもの」 (連載)　とさぼりライフ第 19 号　2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ：こくさいのまで⑮(パレスチナについて) 『神戸青年』No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- ［ヒロシマと世界：　被爆地の声　非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え］ **http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja**
- 2010.3.15　中国新聞　ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO　76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9　Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (http://www.infactispax.org/journal/)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なに色？ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』（日本汎太平洋東南アジア婦人協会）No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号　2009.11　伊丹市国際・平和交流協会　年間事業報告　pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29　2010.1　家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌　ポーポキ・ピース・チャンレジ情報　p.12
- **区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2.　ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。**
- **「『ポーポキ、友情って、なに色？』」「私のいち押し」 奥田光子　THE GAIDAI　2009.7.17　No.243 （関西外大通信）**
- **「友情って・・・考える絵本」 朝日新聞 「生活」(阿久沢悦子） 2009.7.2**
- **「友情を考えて~人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信　RST/ALN　2009.6.28　No. 259, p.11**
- **「カティング・エッジ」 第 35 号　2009.6 （北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」）「新刊紹介：『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック 2」（レベッカ・ジェニスン） p.3**
- **「猫を通して平和を考える　絵本の第 2 弾を出版」（斎藤雅志） 神戸新聞　2009.4.21**
- **「ポーポキ、平和ってなに色？」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.3.1　No.593　p.2**
- **「ポーポキ、ゴミってなに色？」 KOBE YMCA NEWS 「神戸青年」 2009.1.1 No. 592　p.2**
- **「友だちになってくれませんか？」 RST／ALN　2009.2.22**
- **ラジオ番組の中のポーポキ！！！プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。　http://www.kizzna.fm/　録音番組をクリック。番組 CH の6CH をクリック。**
- **やさしいから人なんです展パート20　実行委員会 『世界人権宣言』 ひょうご部落解放・人権研究所　2008．10　500 円。 詳しくは： blrhyg@osk3.3web.ne.jp**
- **「KFAW カレッジ　ロニー・アレキサンダー氏　講演会」 エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 （アジア女性交流・研究フォーラム）**
- **「ピースセミナー　in　熊本　あなたにとっての「平和」とは？」 Kumamoto YMCA News 10　Vol.437 October 2008, p.1**
- **神戸新聞 「人権宣言　兵庫から発信　全 30 条　イラストで表現　地元ゆかり　6 名がパネル制作」 2008.10.8. 10 面**

私にとってのポーポキ

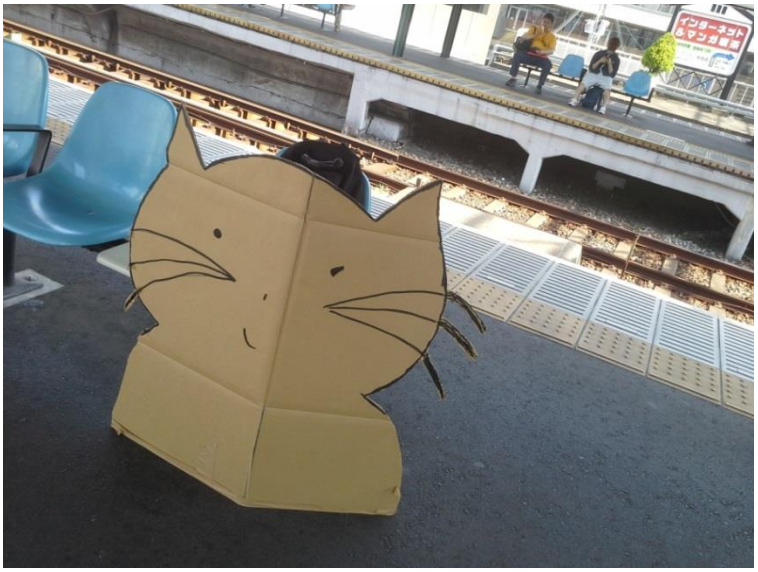
フェデリコにゃん

初めてポーポキのことを知っていたのは、三月末の晴れた日に家でのんびりしながら、ネットで大学の情報を探していた時です。実は、それはポーポキとの本当の出会いではありませんが、ポーポキのベストフレンドのろにゃんに、ポーポキ・ピース・プロジェクトに参加したいと言ったら、歓迎されました。

そして、最高な冒険は始まりました。
初めてポーポキの本を読んだ時、その文章と絵は本当に私の心まで響きました。子どもたちに価値観や友情などを教える絵本は山ほどありますが、ポーポキの本は本当に特別だと思います。なぜなら、思考することを要求するからです！中身は一連の問いかけにすぎません。読者は自分自身の経験、感覚と知識を使って、それらの質問の答えを探さがなければなりません。

ポーポキは平和とは何かということを教えようとしているわけではありません。毛皮で覆われたモダーンなソクラテスのようなポーポキは、平和とは何かという質問の答えを自分自身の中から引きだすように促すのです。なぜなら、その答えは既に私たちの心の中にあるからです。ただ、私たちにはそれが見えるようにならなければならないのです。

私にとってのポーポキは、平和の哲学者です。
私にとってのポーポキは、すでに自らの心の中にある平和へたどり着くための道だと言えます。



平和なポーポキはホームで電車を待っている。みんなに笑顔をかけないわけにはいかなかった。

*フェデリコにゃんが編集した「ポーポキ at 灘チャレンジ」
の動画を観てください！http://popoki.cruisejapan.com/videos.html

さらにご協力ください！

ポーポキ･ピース･プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース･ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース･ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース･ブック 3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011 年に起こった東日本大震災をきっかけに活動をしており、『ポーポキ友情物語　東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を 2012 年 1 月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース･ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース･ブックの翻訳（『ピース･ブック1』は既に10ヵ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース･ブック3』の執筆などの活動を中心に活動を続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさりたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「ご一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いいたいと存じます。本の購入･寄付･本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.com へお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561･FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ･ピース･プロジェクト　popokipeace(at)gmail.com

http://popoki.cruisejapan.com
郵便振替口座番号　00920－4－280350
ゆうちょ銀行　店番099　店名099店　当座　口座番号0280350
口座名　　ポーポキ･ピース･プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円　何口でも結構です。

THANK YOU FROM POPOKI!